様式第２号

事務事業評価表（建設事業等）

評価対象年度	平成 28 年度
１次評価日（主幹等）	29 年 3 月 31 日
２次評価日（課長等）	29 年 3 月 31 日

１ 事業名	農道水路整備事業			コード	24127
２ 担当部課	部等	産業振興部	課等	農林水産課	作成者 柄澤　隆司

３ 事業概要	目的体系 基本目標	魅力と活力にあふれる、にぎわいのあるまち		
	政　策	産業の振興	施　策	農林漁業の振興
	予算科目	農道水路整備事業費	業務委託	全部委託
	実施義務	あり（義務的・標準的事業）	国県補助	なし

●事業の実施内容（DO）

４ 事業の概要等

＊対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）

事業の概要（簡潔に）		農業用水路を良好な状態に整備する。
目的	対象者	農業者
	意　図	農業の効率を上げるため、水路等の整備を行う

５ 事業の必要性

＊事業を計画した当時、この事業が必要になった状況・理由

農業用水路において、通常使用で老朽化した公共構造物の整備は、農業振興において必要不可欠であるため。

６ 事業の全体計画

＊各年度の取組計画

予定全体事業費	49,200,000 円	事業期間	H18～H28
26年度まで	Ｌ＝1,525m　　ポンプ更新　7基		
27年度	Ｌ＝　150m　　ポンプ更新　2基		
28年度	Ｌ＝　150m　　ポンプ更新　2基		
29年度以降			

７ 事業の実施内容

＊各年度の進捗状況

26年度まで	水路整備　Ｌ＝1,198.2m　　ポンプ更新　8基
27年度	水路整備　Ｌ＝50.0m、集水桝設置　１基、ポンプ更新　２基、小水力発電案件形成業務１件
28年度	水路整備　Ｌ＝195.5m
前年度の課題への対応	水路整備及びポンプ更新事業を計画的に行っており、農地に安定した水量を供給できてきているが、年々施設が老朽化してきているので、今後も事業を継続する。

8 コストの推移

＊この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）　［単位：円］

区　分		26年度まで(累計)	27年度	28年度	29年度(予算)
① 直接事業費		60,947,727	5,151,600	2,204,280	3,250,000
経常経費					
臨時的経費		60,947,727	5,151,600	2,204,280	3,250,000
＊臨時的経費の説明					
② 人件費			2,560,000	2,000,000	2,000,000
正規職員の人数（人）			0.32	0.25	0.25
③ 合計コスト（①＋②）		60,947,727	7,711,600	4,204,280	5,250,000
前年度比				54.5%	124.9%
財源内訳	一般財源	28,767,727	5,711,600	3,404,280	4,350,000
	特定財源	32,180,000	2,000,000	800,000	900,000
＊特定財源の説明		農道水路整備事業債・農村地域防災減災事業費国庫補助金			

●事業の評価（CHECK）

9 事業の進捗状況

区　分		26年度まで(累計)	27年度	28年度	29年度(予算)
進捗率	直接事業費の執行率	123.9%	134.3%	138.8%	
	その他の進捗率				
	＊その他の進捗率の説明	市内の用水路及び農業用ポンプは耐用年数があるため、進捗率は出せない。			

事業をとりまく環境変化	
今まで	（これまでに生じた政治・経済・文化などの状況変化のうち、この事業に影響があったこと） ・施設を設置してから、経年がたち、老朽化が目立ち始めている。 ・25・26年度でため池調査業務を実施し、27年度以降のため池整備の計画を策定。
今後	（29年度以降に予測される政治・経済・文化などの状況変化のうち、この事業の進行・完了に影響すると思われること） ・施設の老朽化に伴い、修繕計画を立て、計画的に施設の更新、修繕を実施していく。 ・危険度の高いため池から、受益の調査を行い、廃止または改修の計画策定を行い、継続的に整備を進める。 ・平成32年度までにインフラ長寿命化計画策定する。

●改善の内容（ACTION）

10 今後の課題と対応策

今後の課題	（環境変化を考慮して事業を進めていく上で、29年度以降に課題になること） ・施設の老朽化が進めば、工事費や委託料が増加する。 ・インフラ長寿命化計画策定には国庫補助事業がないため直営での調査・計画策定が見込まれる。
課題への対応策	（上記の課題をふまえて29年度に実施する、具体的な対応方法） ・修繕計画を立て、出来るだけ予算の分割を行うが、併せて、特定財源の確保を行う必要がある。 ・インフラ長寿命化計画策定における農業用水利施設数が多いため、早期に計画的に実施する。

●次年度の計画（PLAN）

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による29年度の優先度 *H27年度施策評価表より転記すること	A